

ご隠居・伊能忠敬

第7回

郷土史研究会会員

二子石 三喜男

(草部出身 熊本市在住)

忠敬の業績と人物像

前号のつづき

商売に工夫努力を重ねた忠敬は、婿に入った時より何十倍にも家業を発展させ、1794年（寛政6）49歳で家督を息子の景敬に譲り隠居。名も勘解由と改め、江戸に出て当時幕府の天文方に採用されていた31歳の高橋至時の弟子となった。

この若くて優秀な至時との運命的な出会いがその後忠敬の測量知識と技術を一段と高め、日本で最初の実測日本地図を完成させることに繋がっている。この当時地球の大きさは外国ではおよその数字で判明していたが、残念ながら日本人ではまだ誰一人知るものはいなかった。忠敬は至時からこのことを知らされ、生来のとことん物事に拘る性格に火がつき、以来寸暇を惜しんで日本人で最初に地球の大きさを明確な数字で表す人物になろうと猛勉強に励んだと伝わっている。幕府はその権威の象徴の一つとして以前から天文方という役所を設け、暦を作製するための多くの学者を雇っていたが、まだ誰も正確な地球の大きさを明らかにすることはできていなかった。先月号にも書いたように、忠敬は物事を工夫研究して成果を上げることに常人には及びもつかない熱意を示した人で、このことは家業を大きく発展させたことでも証明されているが、なんとしても地球の大きさを最初に明らかにした日本人としてその名を残したいという目標を達成するため、50歳を過ぎていた隠居の身ながら情熱を以て天文学や暦学の学習に打ち込んだという。元商人で隠居の身の忠敬には周囲の学者達と比べても特別な才能があったようにはみえないが、一つの事に集中する力とそれをいつまでも持続する力は他の誰の追隨を許さなかったようです。

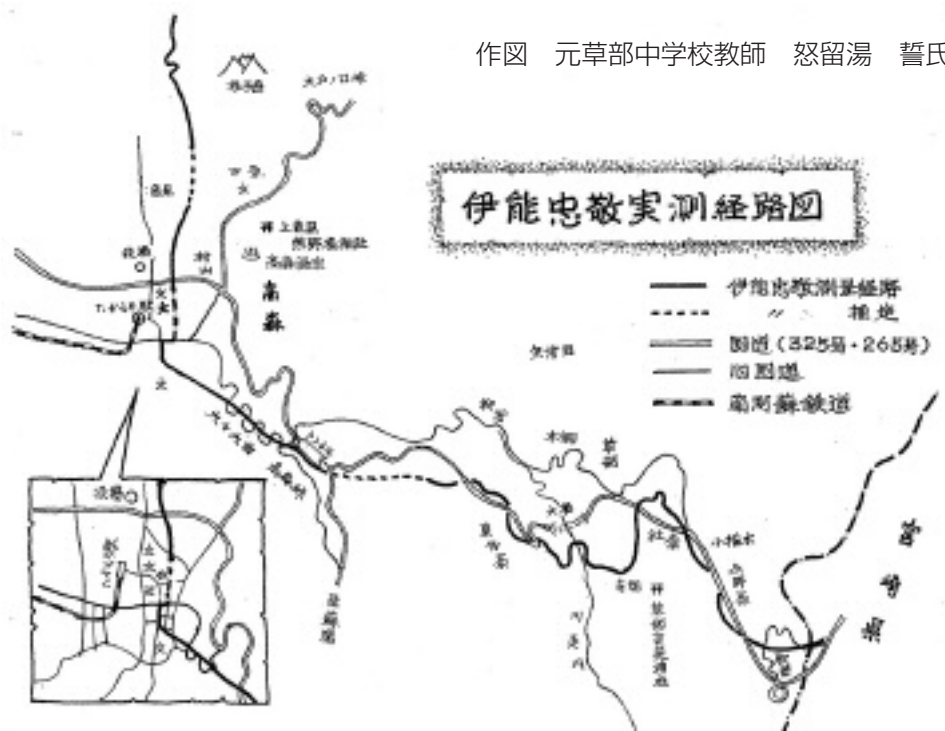
さらに、忠敬の測量への取組みには幕閣の中から当初反対もありその技量を疑問視されたこともあったことから、忠敬は武家中心の社会にあって町人でも優れた仕事ができることを証明したいとの思いを心中深く保持し続け、この信念を大偉業達成の大きな原動力としたのではないかと思います。

平均寿命が短かったこの時代に、50歳を過ぎてからこれだけの大偉業を成し遂げた忠敬とその功績は、現代社会の人々から測量地図づくりといった地味な仕事ながらもっと高く評価されてもいいのではないかと考えますが、町民の皆さんは如何思われますでしょうか。

次号につづく

忠敬が測量した 高森町内の道筋

※測量の道筋として確定
できていない所は点線
で示しています。



作図 元草部中学校教師 怒留湯 誓氏